

卒業生紹介

気負わず、「ほどほど」を信条にキャリアをつなぐ

Konishi Masako
小西 雅子

東京ガス株式会社 関連事業部
関連総務グループマネージャー

第二のターニングポイント

「今まで会社の一部しか知らなかったんですね!」。食の専門家として殆どすべてを見てきた。「次のステップは何だろう」と思っていた2014年4月、東京ガス関連会社68社の人事・総務を統括するグループマネージャーに任命された。このポストで初の女性だ。子会社の多岐にわたる事業を知って視野が一気に開け、見える景色が変わってきた。「第二のターニングポイントを迎えました」。

入社以来、リビングPR部門のトップになる2年前までは、「調理科学」の専門家として研究のかたわら、マスコミを通じて食の情報を広く発信してきた。「どうしてガスで料理すると美味しいのかを、科学的な根拠を基にわかりやすくお客様にお伝えすることが究極のミッション」。人気TV番組「ためしてガッテン」にも数十回と出演しては、炎と調理の関係を解説してきた。

1988年、食物科を卒業した小西さんは、「研究職」志望で東京ガスに入社した。当時はバブル期の直前。昼に面接を受けて、夕方には採用の知らせをもらった。多角化を進める会社の新規事業を支援する部署で、冷凍食品用食材の基礎研究・評価の仕事に就いた。ところが、時代は予想もつかない方向へ。バブルがはじけると事業は清算され、小西さんの仕事はなくなった。外的要因とはいえ、「存在意義が問われることになり、苦しい時期を過ごしました」と振り返る。

発想の転換でチャンスをつかむ

そんな時、子供を授かる。当時は育児休暇を取る人も少なく、上司からは厳しいことばがあった。「休むのはいいいけど、普通に戻ってきても席はないよ。今までの研究を博士論文にまとめるとか、皆がアツと驚くような土産がなければ歓迎できない」。仕事では泣いたことのない小西さんが、その夜はさめざめと泣いた。すぐに母校お茶大を訪ねる。8月に出産、翌年4

1988年お茶の水女子大学家政学部（現生活科学部）卒業。同年東京ガス（株）入社。都市生活研究所主幹研究員、「食情報センター」主幹、リビング営業部リビングPRグループマネージャーを経て、2014年より現職。学術博士。過去に服部栄養専門学校など数校で非常勤講師を務める。著書に『絶品土鍋ご飯の炊き方』『旬を楽しむ ラ・クチーナ・エスプレッサ』など。埼玉県出身。

月には職場復帰という超特急の日程に合わせ、指導はお茶大、審査は昭和女子大という流れが恩師の配慮で決った。1995年春、小西さんは、米の食味評価に関する基礎研究により学術博士号を取得する。昭和女子大第一号の博士となった。

30歳で育児休暇から復帰した小西さんは、仕事の流儀をがらりと変えた。「仕事はなくなっていたので、自分から食の情報ネタを作ってはメディアに発信することにしました」。「待ち」から「攻め」への転換の強力な「武器」となったのは、他でもない、「博士」の肩書だった。研究分野での博士の威力は想像をはるかに超え、「同じ資料を出しても急に話を聞いてくれるようになりました」と笑う。「産休・育休中に博士を取ったことは、私のキャリアの一度目のターニングポイント。親身になって指導をくださったお茶大の先生方、そして結果としてチャレンジに駆り立ててくれた当時の上司には、本当に感謝しています」

恩師の言葉を励みに

その後も、小西さんは部署を異動しながら、専門性に磨きをかけていく。「食情報センター」では、食のオピニオンリーダーとの連携を目的に設立されたスタジオの立ち上げに関わり、一方で26カ所ある一般向け料理教室の企画・運営を統括し、「食育」にも力を注いだ。著名シェフや有識者対応で、小西さんの人脈は一挙に広がった。

振り返れば、多様な機会と挑戦を与えてもら



い、成長してきた自分がある。49歳の今、「人」を育てる使命を受けて、社員にも同じようにキャリアの幅を広げる経験を提供したいと願う。

仕事、家庭、子育てのなかで、「どれもほどほどに」を信条に、「常にバランスを考えながら」やってきた。「ほどほど」とは、決して中途半端に物事をこなすことではない。平均台の上を歩くような絶妙なバランス感覚が要求される。「娘が小学校を卒業するまでは残業をしない」というルールを自らに課し、12年間貫く決断も時には必要だ。

あるとき、お茶大名誉教授の島田敦子先生に言われた。「子供が小さいときは『低空飛行』でよい。落ちない程度に仕事も家庭も頑張つて続けなさい。いつか子どもが大きくなったら思い切り大きく飛ばせよ」。恩師のこの言葉が、小西流「ほどほど」の原点だ。

文責：坪田秀子（学長特命補佐）

わたしのオフタイム

週日は埼玉の実家で両親と共に家族全員で暮らす。週末は横浜に戻り、親子3人で過ごす生活を20年続けている。陸上部の娘さんに引張られ、家族全員、ジムで汗を流した後は、中華街で食事をするひとときも楽しい。